

ストーリードリブン 脱出ゲーム：アウェイクニング

ESCAPE TALES

THE AWAKENING

STORY BOOK

ストーリーブック

アウェイクニング

覚醒の儀式

君はサミュエル、35歳。5年前に君の妻のジェニファーは、娘のリジーと君を残してこの世を去った。ジェニファーがいなくなった日々を受け入れるには、相応の時間がかかった。これより悪いことは起きないだろう、そう考えることにしていた。しかし君は間違っていた……。

2ヶ月前、リジーは慢性的な疲れを感じ始め、どこでも眠りに落ちるようになってしまった。すぐに医者に連れて行ったが、そうした専門家はまったく悪いところなどないという。しかし家に帰る準備をする間にも、状態は悪くなっていった——どうとうリジーは意識を失い、深い眠りに陥った。

君は毎日彼女のベッドのそばで過ごし、回復を待った。しかしどうにもならなかった。医者は頼りにならないと思えたので、あらゆる手掛かりを探すことに決めた。

とある古い新聞で、よく似た事件を見つけた。10代の男の子が5カ月の昏睡の末、突然目を覚ましたのだ。君は男の子の父親であるマークと接触して、役に立つ情報を求めた。

マークは君を家に招いた。彼は息子の状態について語り、回復したことはまったくの奇跡だと言った。マークには隠していることがあるようだった。君は自分がどのように妻を失い、どれほど娘を失うことを恐れているか伝えた。その言葉を聞き、マークは秘密を明かした。

「私がしたことを教えよう……。君の役に立つかは分からないが」彼はためらいながら言って、古い革綴じの本を引き出しから取り出した。

「息子の状態が絶望的なものになったとき、これを使って儀式をしたんだ」そして彼は静かに続けた。「……この「本」は君に譲ろう。だけど覚悟した方がいい。息子を目覚めさせるための対価は、決して安くはなかった」

君はもっと詳しく聞きたがったが、彼はそれ以上何も語らなかった。その眼には恐れの色が見えた。君は「本」を受け取り、読み始めた。

そこに書かれていた覚醒の儀式は、失われた人間の魂がたどり着く場所に、自ら行くためのものらしい。「キーパー（守護者）」と呼ばれる住人が住む、別の世界だ。彼らは思い通りに世界を形作り、人間の古い記憶を食べたり集めたりするという。

1週間後、病院のリジーを訪ねた。動くこともない青白い顔を見て、不安が膨れ上がった。心臓こそまだ動いているが、状態は悪化する一方だ。その命は失われつつある……。額に優しくキスをして、君は部屋を出た。選択の余地はない。この「本」を使って、リジーを助けなくてはならない。

・P159に進み、ゲームを始めましょう。

P001

浴槽付近の壁から、鳩の甲高い金切り声が聞こえる。部屋の隅にある、紫色の鳩時計が目についた。その針は異常に長い。

- ・カードC060を獲得します。

P002

「春の謎」リジーはこの謎をそう呼んでいた。娘が一所懸命にこの謎を作っていた。君は何度も床を綺麗にしようと思ったのだが、リジーは決して許してくれなかった。その理由が何であれ、この謎は大事な物だったらしい。

- ・カードC089を獲得します。
- ・これは謎カードです。アプリを確認してください。

P003

数字の書かれたボードは様々な色に明滅している。赤、黄、黒、緑。その配列をより近くで見るため、君は歩み寄った。

- ・カードC003を獲得します。

P004

リジーはなぞなぞが大好きだった。仕事をしようと地下室と一緒に行くたびに、部屋の中を走り回ったり、聞いた事もないなぞなぞを出したりして、いつも君を困らせたものだ。まったく解けなかったその1つが、まだ地下室の壁を飾っている。

- ・カードC011を獲得します。
- ・これは謎カードです。アプリを確認してください。

P005

冷蔵庫の「ポータル」は、永遠に続いているように思われた。耐え難い寒さに震えていると、いつしか保奶瓶、果物、食材らしきものに取り囲まれていた。

「サミュエル、古い牛乳を今すぐ捨てて。何度も言ったでしょう……冷蔵庫を掃除して古くなったものは捨ててちょうだい。わかった?」

ジェニファーの疲れた声を聞いて、彼女とのあらゆる不毛な言い合いを思い出した。ため息をつきながら答える。「すぐやるよ、ジェニファー」

「ありがとう。それから卵……列を作らないといけないわね、見たらわかるわ」ジェニファーは念押しした。


顔をしかめつつ、卵を見る。最初は、これをどう並べればいいのか全く分からなかった。

- ・カードC093を捨てます。
- ・現在の場面カードとマップカードを、使用済みトークンと一緒に捨てます。
- ・もし持っているなら、カードC009、C048、C082を捨てます。
- ・場面カードL08を獲得し、手前に置きます。
- ・この場面ではエリアを調べる必要はありませんが、謎を解かなければなりません。

P006

心電図のモニターが示したとおりに、徐細動器のボタンを押した。謎の心音はよりはっきり聞こえるようになり、鼓動も完全に安定したようだ。

「誰かはわからないけれど、助けてくれてありがとう。今なら起きられる」か細い声が聞こえる。君の前に杯が現れ、その中は正体不明の緑色の液体で満たされていた。心臓の音が遠くなっていく。君が最後に聞いたのは、驚き夢中になっている医者と知らない男の子の叫びだった——「父さん、帰って来たよ!」

- ・カードC002、C109を捨てます。
- ・カードC084を獲得します。
- ・ マークがついたカードを持っているなら、P127へ。

P007

壊れた壺の破片をざっと見てみた。壺の内側に、白いチョークであの水滴の記号と同じものが描かれていた。

P008

君が壁に答えを示すと、壁は喜んではいないようだ。しばらく、黙ったままだった。

「もっと手こずると思っていたのに……でも、約束は約束ね」

壁の様子はレンガの隙間へと消えていき、いくつかのレンガが壁から抜け落ちた。そうしてできた穴の中に、リジーの担当医の名刺が入っていた。

- ・カードC007を捨てます。
- ・カードC103を獲得します。

P009

君は古い、擦り切れた視力検査の用紙を見た。一瞬その文字の一部がぼやけたようだったが、しばらくすると文字は安定し、君はそれに近づくことができた。

- ・カードC010を獲得します。

P010

君は暗闇に飲み込まれ、気がついたら屋根裏部屋の中にいた。君以外にも誰かがいる。ぞっとすることに、君の知っている2人が鎖で壁につながれている。ジェニファーとリジーの担当医だ。まず、君は二人に近づこうとした。2人は口を閉じたまま目玉を動かして何かを訴えようとしていた。2人の視線を辿ると、その先にある部屋の両端のガーゴイルに気づいた。

- ・現在の場面カードとマップカードを、使用済みトークンと一緒に捨てます。
- ・もし持っているなら、カードC001、C020、C043、C060、C108を捨てます。
- ・場面カードL02、L05を獲得します。
- ・カードC046を獲得します。
- ・マップカードに従い、場面カードを配置します。
- ・アクショントークン1個を獲得します

P011

君がカーテンを持ち上げると、そこにあるはずの鏡はなかった。代わりに、壁には白いチョークで壺と水滴のシンボルが描かれていた。

「お客様! お客様なんて久しぶりね!」壁から声が聞こえてくる。「ここを通りたければ、あなたの实力を見せてちょうだい」

「君は誰だい?」君は聞いた。

「シーッ! 私はあなたが探している子じゃないわ」壁はこう続ける。「数式の謎が解けたなら、この向こうを見せてあげるわ」

- ・カードC007を獲得します。

P012

ドクロに近づくと、それらは突然こちらを向いた。色とりどりの光が彼らの目や鼻の穴から放たれている。

「順番が分からないんだ。ほっとしてくれ!」ドクロの1つが声を張り上げる。

「ああ、ほっとしてくれ。もし正しい順番が分かったら、こんなところにはいないのに」別の1つが言う。

「おれが最初だ! おれが!」また別のドクロが口を出す。

「いいや! おれが一番だ!」

ドクロは大声で言い争いを続けており、完全に君の存在を忘れている。君はあたりを見渡し、彼らを静かにする方法を探した。

- ・カードC072を獲得します。

P013

「俺の名前はルシアン」その生き物はそう名乗った。「ところで、こいつを記憶の世界で見つけた。俺はこんなものいらないが、お前なら何かの役に立つかもな。きっとどっかで落としたんじゃないか」ルシアンはにっかりと笑い、「本」の一部を君に与えた。

「あなたがキーパーですか?」君は聞いた。

ルシアンは、答えるまでもないというように肩をすくめた。彼は部屋を見回した。

「俺は友達を探しているんだ。この辺りにいるはずなんだが……」

- ・カードC014を捨てます。
- ・場面カードL03、L10を獲得します。
- ・カードC039、C114を獲得します。
- ・マップカードに従い、場面カードを配置します。
- ・アクショントークン4個を獲得します。
- ・アクショントークン1個を、D2に置きます。
- ・P011へ。

P014

担当医を解放することにした。鍵を挿して回すと、同時にジェニファーが消えてしまった。担当医は立ち上がり、頭を下げた。「申し訳ありません。彼女を救えませんでした」彼は苦しそうに話した。彼はジェニファーの死亡診断書を渡した。それからゆっくりと形を失い、消えてしまった。君は叫びながら掴みかかろうとしたが、無駄だった。君は再び独りになってしまった。

- ・カードC026、C092を捨てます。
- ・カードC104を獲得します。

P008
P009
P010
P011
P012
P013
P014

P015
P016
P017
P018
P019
P020
P021
P022
P023

P015

地下室が姿を変えていく。周りに病院の設備とリジーのベッドが現れた。無意味な検査で疲れた娘は、少し眠りたいと言ったきり、ずっと目を覚まさない。近づいてみると、ベッドのそばに、娘の名前が記されたカードがある。

- ・場面カードL13、L15を獲得します。
- ・カードC024を獲得します。
- ・マップカードに従い、場面カードを配置します。
- ・アクショントークン5個を獲得します。
- ・アクショントークン1個を、C3に置きます。
- ・P028へ。

P016

君が暗号を読み上げると、部屋は霧に覆われる。霧の中にジェニファーとリジーの思い出の幻影が浮かぶ。一緒に遊ぶ2人、幼稚園に娘を迎えに行く妻、上手くいかなかった初めての料理実習。記憶の幻影は消えたが、君の顔には微笑みが残った。

- ・カードC009、C048、C082を捨てます。
- ・アクショントークン3個を獲得します。

P017

君はジェニファーに貰った薬瓶を手にとった。キーパーは同意したように頷いた。

「それを飲むといい。そうすればリズを目覚めさせてやろう」

「リジーだ」

君は訂正した。娘の名前はどうでもいいとも言うように、キーパーは肩をくすめた。見るからに苛ついているようだ。

「時間がない。飲む」

ジェニファーの言葉を思い出しながら、水薬を一気に飲んだ。心臓の鼓動が異常に高まる。ついには倒れそうになって、腹を抑えたままキーパーの腕を掴んだ。次の瞬間にも、気を失ってしまいそうだ。

- ・P063へ。

P018

一見してその鳩時計は故障しているように見える。鳩が出てくる扉は閉まっていて、文字盤の数字はバラバラに並んでいる。列がおかしくなっている。

- ・カードC108を獲得します。

P019

「全部私のせいよ。私が間違っていたの」ジェニファーが言った。「あなたを独りにしてしまった、でもわかってくれるでしょう？ 全部あなたとリジーのためだったの。私を犠牲にすれば、何かが変わると思ったの。ねえ、わかるでしょう？」

君は何も話さない。既に心を決めたのだ。妻の顔に失望の色が浮かぶが、君の心には変わりはない。

「サミュエル、あなたは大きな過ちを犯しているのよ！ 私たちは幸せになれたかもしれないのに。でも、もう…」

ジェニファーは手を開いた。そこにはリジーの錠剤が幾つかあった。

「持って行って。私にはもういらない」

君はしぶしぶジェニファーが差し出した錠剤を受け取りながら、妻の死因について推測した。その恐ろしい推測を確かめる前に、彼女は思考が止まったかのように硬直し、何も話さなくなった。

- ・カードC006を捨てます。
- ・カードC081を獲得します。

P020

ふと顔をあげたところ、机の引き出しの鍵が天井からつるされていた。しかし手が届かない。壁に掛けられた道具が目に入った。あいにく、道具は少なく感じる。リジーの怪我を心配した君は、ほとんどの道具を隠したのだ。鍵を取るために必要な道具は見当たらない。

- ・カードC037を獲得します。

P021

キッチンに礼拝机があるなんて。君はひどく驚いた。しかも、ジェニファーは宗教を深く信じてはいなかった。近づいてみると、色分けされた円と算数の記号が見えた。

P022

ツールボード（工具棚）の役割はいつも2つあった。地下室のあらゆる小道具を収納しただけでなく、ある暗号を表すためにも使っていた。それらをじっと見つめると、この配列は普通ではないとわかる。何らかの意図があるはずだ。

- ・カードC098を獲得します。
- ・これは謎カードです。アプリを確認してください。

P023

君は正しい没年を答えた。家系図の後ろから、壊れた鍵が落ちてきた。

- ・カードC004を捨てます。
- ・カードC092を獲得します。

P024

ジェニファーの幸せそうな笑い声が、マンホールから聞こえてきた。君は駆け寄る。マンホールの蓋を持ち上げようとしてみたが、重すぎて動かせなかった。少しして笑い声は絶え、気の滅入るような静寂に独りで耐えなければならなくなった。

P025

君は注意深く、ルシアンのスボンの緑色の染みを見た。その緑色の染みは乾燥した木工塗料を思わせた。

P026

植物の間に、妙な剥製を見つける。それは完全に別世界のもののようだ。その頭は動き、君を不吉に見つめている。一瞬の後、それらが見ているのは君ではなく、部屋の反対側だと気づく。

P027

リジーのお気に入りの帽子だ！君がそれを買ってから、娘はいつもそれをかぶっていた。娘は幼稚園でもずっとかぶっていたし、かぶったまま眠ることすらあった。きみはそれを手に取った。どうやってここに現れたのかはわからない。

・カードC113を獲得します。

P028

リジーの医療カードには、いくつかの単語と数字が書き込まれていた。右下のマスに赤い丸があり、「合計!」と書き添えられている。すべての数字を合わせて書き入れてみたが、その数字は消えてしまった。君は手掛かりを求め、カードを持ってこの部屋を見回した。驚くべきことに、あるものが鏡に映っていないことに気づいた。

- ・カードC044を獲得します。
- ・アクショントークン1個を、A2に置きます。
- ・P135へ。

P029

タイルに付いた取っ手を引っ張った。すると、その下には複雑な配管系があって、パイプには番号が記されている。面白いことに、パイプは回転させてつなぎ変えることができるようだ。

・カードC001を獲得します。

P030

君は屈みこみ、ポットや鍋の入った食器棚を開けた。食器の間から、ちぎれたロープがはみ出していた。それを掴み、ゆっくりと引っ張り出す。ポットの間から現れたロープの先は、首吊り縄になっていた。

・カードC030を獲得します。

P031

君の後ろで、鍵が開く音がした。君はこのキャビネットを通ってここに来た。そしてその扉を封じていた錠前は、今や床に落ちている。扉は痛々しくきしみながら開いた。キャビネットの内側に、新たな「ポータル」が見える。君が進み続けたいのなら、決断しなければならない。

- ・カードC121を捨てます。
- ・カードC071を獲得します。

P032

部屋の片隅にある、見事な出来の鏡は昔から、ホコリにまみれていた。君は妻が死んでから、この鏡を地下室に運んだことをぼんやりと覚えている。彼女は鏡を見るのが大好きだった。君はどうしてもその鏡を捨てられなかった。

P033

ジェニファーと使っていたベッドは、不眠に悩む彼女を思い起こさせた。幾晩もうまく眠れなくて苦しんでいた。それは頭痛によるもので、彼女を救える薬はなかった。

P034

「友達を探していると言いましたね。どんな方ですか？」君は、近づきながらルシアンに聞いた。

「小さくて、角があるな。お腹に縫い跡がある」ああ、ルシアンはさも大事なことではないように、「あと、とってもふわふわなんだ」と付け加えた。「もしかしたら、どこかで見かけてるんじゃないか？」

・もしカードC016を持っていて、それをルシアンに伝えようとするなら、P130へ。

P024
P025
P026
P027
P029
P030
P031
P032
P033
P034

P035
P036
P037
P038
P039
P040
P041
P042
P043
P044

P035

君はジェニファーからもらった写真を、ポケットから取り出した。キーパーは怪しげな微笑みをたたえた。

「世界一のお父さん、ねえ。この記憶を渡すなら、娘を眠りから解放してやろう」

彼は重々しく告げた。

君がキーパーに写真を渡すと、リジーは直ちに目を覚ました。

「リジー!」

君は叫んだ。しかしその声は娘に届かないようだ。彼女の病室に驚いた医者たちが集う。君もリジーのそばに走って行こうとするが、君の体は全く動かない。胸に異常な熱を感じる。君は怯えながらキーパーを見た。

・ P149へ。

P036

ダイヤル錠がかかった鉄格子の隣に、スズールがあった。調べようと近づくと、そこに何かが書かれていた。

・ カードC079、C111を獲得します。

P037

リジーの古い作業台にはどこにもチョークがない。机の引き出しの1つに南京錠が掛けられている。もしかすると、その中にチョークの箱があるかもしれない。

・ カードC122を獲得します。

P038

鏡台の上には鍵のかかった宝石ケースがあった。ジェニファーはここに、宝石を保管していた。そのすぐ下の扉の中には、いくつかの穴が空いた幾何学図形の造形物があった。君は周りを見て、同じ形をどこかで見なかったかと考えた。

・ カードC064を獲得します。

P039

手に本を持っているガーゴイルは、読書を止めて、君を見た。「つまんない、つまんない。死ぬほど分厚いだけで事件ひとつ起きやしない。お前、何か面白い読み物は持ってないか? 何冊でも受け取るぞ? お返しはきっちりするからな!」

・ プレイヤーは マークがついたカードを捨てることができます。捨てたカード1枚につき、3個のアクショントークンを獲得します。

P040

暗証番号を入力すると、ダイヤル錠が開き同時にすべての鎖が消えた。君はテーブルの下からキャビネットをずらした。2つの家具は両方とも君に有用なはずだ。

・ カードC083を捨てます。
・ カードC015、C038を獲得します。

P041

堅固で重厚な金庫が部屋の隅にあり、場違いな雰囲気をもっていた。君が子供部屋に、このような金庫を置いていたはずもない。君は歩み寄った。金庫にはいくつかの幾何学図形が書いてある。

・ カードC087を獲得します。

P042

真ん中には巨大なクモが一匹いる。恐ろしくはあったが、近くで見てみることにした。

「めええ〜しいい〜……」 おそらくそのクモが発する、かすかなうめき声が聞こえる。これだけの数のハエを捕らえているというのに、おかしなことを言うものだ。だが、君はすぐに問題に気がついた——クモの巣の一部は弱く、クモの体を支えることができない。弱い場所を通ろうとすれば、きっと巣全体が壊れてしまうのだ。君はこのクモが飢えている理由が分かった。

・ カードC018を獲得します。

P043

壁の高い所に扉がある。そこに何かが刻まれているが、高くして君の手は届かない。何か踏み台にするものを探そうと、辺りを見回した。

P044

冷蔵庫の扉が閉まると、子守唄は聞こえなくなった。

「お話とは、何でしょうか」君は話しかけた。

医者は軽くうなずいた。

「奴らが聞いているかもしれませんが、場所を変えましょう」 そう彼は言い、冷蔵庫の方に振り向いた。彼は重そうなマンホールの蓋を、軽々と持ち上げる。君はマンホールを下りていく梯子に気づいた。

「こちらです」

君は下りていく医者を見下ろし、どうするべきか考えた。

・ カードC062を捨てます。
・ カードC119を獲得します。
・ もしB1が空いていれば、アクショントークン1個を獲得して、B1に置きます(調べたことにはならず、P024には進みません)。

P045

鏡に映ったものが、君の感覚を惑わせた。一見、正しく映しているように見えるが、実際には違う。鏡に映ったテーブルの傷は、本物の傷とはまったく違う形をしていた。

・カードC091を獲得します。

P046

壁には穴が開いており、ときどき動物がこわごわ顔を出したりひっこめたりしている。

P047

床の上に、文様が刺繍されたカーペットが、筒状に巻かれたまま置かれていた。

・カードC069を獲得します。

P048

儀式に必要なものはすべて揃った。「本」の指示通り文様を描き、ロウソクを配置した。魔法陣の真ん中に立ち、リジーのおもちゃを手にして、呪文を唱え始める。次の瞬間、ロウソクに火がついた。青い炎が燃え上がる。

・カードC107を持っているなら、P098へ。
・カードC045を持っているなら、P082へ。

P049

君は冷蔵庫に近づき取っ手を握った。力の限り引っぱってみるが、扉には鍵がかかっていた。君の気を引いたのは、数字が書かれた3つのダイヤルだ。隣にはシンボルが描かれている。

・カードC086を獲得します。

P050

君は娘のベビーベッドを自分で作った。彼女が生まれるずっと前だ。地下室で長い時間をかけて、板に釘を打ち紫色に塗った。君はその柵の1本に手を触れた。塗装が剥がれ、様々な色の線が浮き出ている。こんな色を塗った覚えはない。

・カードC068を獲得します。

P051

金庫に近づいて暗証番号を入力したが何も起きなかった。正しい組み合わせを思い出そうとしたが、無理だった。リジーの安全を考えて、暗証番号を変えたはずだ。好奇心あふれる娘は、やってはいけないと言われるとやってみたくなる性格だった。君はため息をつきながら、地下室を見回った。記憶力が良くない君は、金庫の暗証番号をどこかに書き込んだはずだ。

・カードC076を獲得します。
・これは謎カードです。アプリを確認してください。

P052

テーブルには妙な形の傷がいくつかついている。

・カードC052を獲得します。

P053

ベッドの上に、不気味な絵が飾られている。それは君に、家族で過ごした最後のハロウィンを思い出させた。君たちはリジーを連れ出したが、帰ってみるとオカルトめいたシンボルが家のドアに描かれていたのだ——「本」を飾っていたシンボルも、それと同じものだった。君にとって、それはただの悪戯だったが、ジェニファーは動揺した。彼女が元通りになるまでには、数日の時間が必要だった。

P054

窓の格子が、何色かに塗り分けられている。その向こうに、ボタンのようなものが描かれている。

・カードC116を獲得します。

P055

君がまた新たな「ポータル」を潜り抜けると、リジーの病室が現れた。君の前に立っている、ルシアンと似た誰かが娘に顔を寄せて囁いた。

「お父さんと一緒に、帰りたいかい？」

リジーは返事をしない。そばに駆け寄ろうとしても、足が動かない。全身が粘付く透明の何かにきつく捕われ、体の自由を奪われたように感じた。

「娘を俺たちから取り戻したいなら、相応の捧げものが必要だ」

キーパーはそう言いながら、貪欲な手を差し伸べた。

・場面カードL06を獲得します。
・アプリを使ってください。

P045
P046
P047
P048
P049
P050
P051
P052
P053
P054
P055

P056

医療機器を見ていると、リジーが強いられてきた数々の検査を思い出す。精神科医の診察、MRI、血液検査……もし自分が認めていないだけで、リジーはもう救うことなどできないとしたら？

P057

目が覚めると、そこは君の自宅、魔法陣の上だ。君は外へ飛び出して、急いで病院に向かった。胸には希望が満ちている。

「リジー」

君は娘の名前を呼びながら、病室に入ったが、返事はない。娘は相変わらず意識を失ったままだった。しかし娘の顔には幸せの微笑みが浮かんでいる。君はその微笑みを覚えている。リジーがお母さんと一緒にいた時に見せる微笑みだ。涙が頬を伝い落ちた。君は死んだジェニファーに、リジーの世話を委ねてしまったのだ。はたして、彼女がリジーを返す日は来るのだろうか。

・おわり

P058

クモがすべてのハエを食べるための道のりを見つけ、それを大声で教えた。

「ありがとう、ガイドさん！」クモは答えた。「あなたへのご褒美が、この巣の裏にありますよ」

なるほど、君がクモの巣の後ろに手を伸ばすと、錬金術のレシピが書かれた紙片が見つかった。

- ・カードC018、C067を捨てます。
- ・カードC085を獲得します。

P059

部屋の真ん中に、ひび割れて半分になったウィジャ盤がある。巧みに刻まれた文字を見ながら、これを最後に使った者が誰か気になった。

- ・もしカードC033を持っているなら、P066へ。

P060

部屋の中心から、装飾的な壺を眺め回した。表面にはいくつかの図形と、数字を象った赤い線が書いてある。

P061

以前手に入れたトイレのラバーカップを、ドクロの隣に置いた。

「やったぞ！ ついに王笏が戻ってきたぞ！」ドクロが叫ぶ。

「褒美を与えよう。近う寄るがよい！」

君は便器の中の水を眺める。水に幻影が映る。退院したりリジーが君を抱きしめる幻影だった。

- ・カードC051を捨てます。
- ・アクショントークン2個を獲得します。

P062

君は家具を崩れないように気を付けながら、積み重ねた。積み重ねた家具はすこし揺れるものの、君の体重に耐える程度には安定している。家具に登ると扉に手が届いた。

- ・カードC015、C032、C038、C102、C111を捨てます。
- ・カードC096を獲得します。

P063

「あんた、僕に何をした！」

震える手足で体を支えながら、キーパーに問う。

「何も。正しい質問は、お前が自分の体に何をしたか、だろう。お前は間違った選択をしてしまった。お前は最悪のキーパーの言葉を信じてしまったのだよ。お前は、リジーはもちろん、自分すら守れなかったんだよ。お前に生きる資格はない。お前たちは全員、二度と目覚めることはない」

「おやすみ、サミュエル君」

視界が真っ暗になる。キーパーが何か話しているが、何も聞こえない。体が闇に溺れていくようだった。そして次の瞬間、君は何も感じなくなった。

・おわり

P064

キーパーを満足させる物品はないか、ポケットを探った。

「渡せる物が1つもないのかい？ そうか、そうか」

彼は君を見下ろした。

「頼む、何か方法はないのか？」

「すまないが、犠牲がなければ儀式は完成しない。俺はもう既に一千回はそう言っているはずだ。いいか？ 君の相手はそろそろ飽きてきたよ」

そう言いながら、キーパーは指を鳴らした。病院は消えた。

- ・P102へ

P065

シンクの形は異常だ。主に蛇口と排水溝の数のせいだ。君はそのうちの1つをひねった。パイプの中から水の音が聞こえたが、何も起きなかった。他の蛇口も試してみたが、結果は同じだった。

・カードC115を獲得します。

P066

割れ目を見ると、以前見つけていたウィジャ盤とびったり合う。君はそれを取り出し2つを合わせた。部屋の中が助けと救いを求める、無数の声で満たされる。その中に、リジーの清らかな声を聞いた。君は自分が追う方向がまちがいないと確信した。

・カードC033を捨てます。
・アクショントークン2個を獲得します。

P067

君は洗面台に近づくと、床にぼっかり空いた穴に気づいた。まるで誰かが、床のタイルを1枚引きはがしたようだ。

P068

黄色が目立つ仕掛けが付いた金庫の隣に、クモの巣に覆われた椅子があった。君はクモの巣を払い、椅子に書かれた一文を読んだ。

・カードC102、C110を獲得します。

P069

鉄格子の扉を開けようとしても、ダイヤル錠がかかっているせいでちっとも動かない。鉄格子の先は下水道のトンネルだ。闇の向こうを見通そうとしても、なかなか闇に目が慣れない。何かがあるとしても、分からないだろう。

P070

ジェニファーは君に背を向けた。彼女が着ている桃色のドレスは結婚記念日にプレゼントしたものだ気づいた。それは彼女が死んでいた、そのときに着ていた服だった……。

P071

君は目覚めて、すぐに地下室を出て病院に電話をした。名乗ってから、恐る恐る娘の調子を聞く。

「申し訳ありませんが、リジーさんの調子に変わりはありません。私たちは娘さんが目覚めるよう最善を尽くしています」

医者はそう告げた。君は落胆して寝室に向かったが、そこで君は凍りついた。これは知らない寝室だ！そして写真立てに写る2人……見知らぬ女性が笑いながら君を抱きしめている！指には結婚指輪が見える。君は頭を振って疑問を追い払おうとした。これは何かの悪い冗談だ！いくら思い出そうとしても、写真の女性が誰なのかわからなかった。

・おわり

P072

君が角を正しい位置に合わせると、牡鹿の口から何か落ちてきた。床には数字が記された金色のダイヤルがあって、変わった形の時計を連想させた。

・カードC058を捨てます。
・カードC097を獲得します。

P073

便器の貯水タンクの側面に、ピンク色の紙が貼り付けられていた。九九表のような何かが描かれている。君は示された配列を見て、それぞれのマスに書かれた数字の関係性を理解しようとした。

・カードC053を獲得します。

P074

君がカーペットを開いてみると、四角形と、まだ埋められていない図表が1つある。これはリジーのお気に入りのパズルの1つだ。リジーはこれを「四角のジャンプ」と呼んでいた。君は黒いマスを眺め、それらの移動の法則を考えた。リジーがこのパズルを解くところを、もっと気をつけて見ておけばよかったと後悔した。

・カードC056を獲得します。

P075

君は鉄の棒を使って、天井からつるされた鍵を落とした。一発で成功した。君はひと目でこの黄銅の鍵が何なのかが分かった。リジーの机の引き出しの鍵に違いない。

・カードC037、C057を捨てます。
・カードC012を獲得します。

P065
P066
P067
P068
P069
P070
P071
P072
P073
P074
P075

P076
P077
P078
P079
P080
P081
P082
P083
P084

P076

壁には仕掛けがあった。しかし、一部の部品が欠けていて、欠けている部品の跡だけが残っている。

- ・カードC041を獲得します。

P077

壁のところに、古いボードがあった。それぞれ違う角度に曲がって、数字のつけられた線が描かれている。ボードにかかれたものの全体図は、網目の形で繋がるようだが、どのようになるかは分からない。このパズルを解くには、さらなる手掛かりが必要なようだ。

- ・カードC067を獲得します。

P078

君はジェニファーに近づいた。床には、リジーの薬が入っていたガラス瓶が転がっている。リジーが幼い頃に飲んでいたものだ。

「サミュエル、私はね、こんなことはやりたくなかった」

妻が呟いた。君は彼女の瞳から悲しみと共に、決意を感じた。

「私たちは皆一緒に幸せになるはずだった。あの「本」がそう約束してくれた。最後の瞬間、あいつらは契約を果たさなければならぬ」

彼女の口調は異常に堅い。彼女は君を見つめて、ポケットから何かを取り出した。

- ・カードC006を獲得します。

P079

鉄格子の隣に、スツールがある。調べようと近づくと、その座面に何かが書かれていた。

- ・カードC111を獲得します。

P080


君はジェニファーを自由にした。すると、鍵と担当医が消えてしまった。ジェニファーが腕を首に回して君を抱きしめた。「お誕生日おめでとう。これはあなたへのプレゼント。私とリジーの2人で準備したの」

彼女は君を離して、緑のリボンが付いたピンク色の小箱を渡した。リボンには、「お父さん、お誕生日おめでとう!」と書かれている。プレゼントを受け取った君はお礼を言おうとしたが、そこにもうジェニファーの姿はなかった。君は独り残されたのだ。

- ・カードC026、C092を捨てます。
- ・カードC021を獲得します。

P081

君は壺を持っているガーゴイルに近づいた。石でできた生物のゆっくり動く舌が君の注意を引く。舌なめずりをしているようだ。君が諦めて振り向こうとした時、ガーゴイルが手を上げて君を止めた。手に持つスプーンで君を指しながら、食べ物要求した。

- ・プレイヤーは  マークがついたカードを捨てることができず、捨てたカード1枚につき、3個のアクショントークンを獲得します。

P082

君は呪文の詠唱を終えた。目の前に色とりどりの絵がいくつも現れた。その一部はリジーが描いた作品のようだ。次々と現れる色彩と図形の波で頭が痛む。君は目を閉じて、混乱を抑えた。目を開けると……そこは知らない場所だった。

- ・未使用のアクショントークンをすべて捨てます。(未使用のトークンを捨てるのは今回のみです。次の場所からは未使用のトークンは持ち越します)。
- ・これから「アプリを確認してください」は表示されません。謎マークのカードが現れると、アプリを確認してください。
- ・カードC017、C025、C045、C047を捨てます。
- ・現在の場面カードとマップカードを、使用済みトークンと一緒に捨てます。
- ・アクショントークン1個を獲得します。
- ・P015へ。


P083

今手に握っている鍵で誰を解放するのか、君は悩み始めた。ジェニファーを信じるのか？ それともリジーの担当医を信じるのか？

- ・カードC054を捨てます。
- ・カードC026を獲得します。

P084

周りの空気が突然重くなる。誰かが君の腕に触れ、振りむくとそこに消えていく影があった。その影が持ち去ろうとしているのはリジーの持ち物だ！ 恐ろしくなり、君は周囲を見渡す。それが何であれ、“カドリーさん” だけは置いていくしかなかったようだ……少なくとも、君にはそう思えた。

- ・カードC063、C077、C113を捨てます。
- ・カードC016を獲得します。
- ・  マークがついたカードを持っているなら、P127へ。

P085

君はゆっくりとジュニファーに歩み寄った。彼女の目は虚ろだった。君は彼女の肩に手を置いた。

「ジュニファー、本当に君なのか?」

彼女は身震いした。幽霊でも見たように。

「サミュエル、どうしたの? ここはあなたが来ていい場所じゃない……あなたも儀式をやってしまったの、違うと言って……」彼女は激しくかぶりを振った。目には涙が溜まっている。君は何か言おうとしたが、先に口を開いたのはジュニファーだった。

「ぜんぶ私が悪いの。あの“本”の儀式をして……いくつかの願い事をしたの……そして願いには対価が必要だった。私が偏頭痛の薬を飲み始めたのはいつからか、覚えてる? 全部儀式のせいなの。私はキーパーに騙された……」

君はいつものように頭を優しく撫で、彼女をなだめた。ジュニファーがあなたの目を見つめる。

「ごめんなさい、サミュエル……」

・カードC066を獲得します。

P086

なじみ深いぬいぐるみの“カドリーさん”がそこにあった。このおもちゃは、ジュニファーがリジーの4歳の誕生日を祝って贈ったものだ。その時からずっと、これはリジーが最も気に入っていたおもちゃになった。そしてジュニファーが死んだからは、最も大事な母の形見になった。君は“カドリーさん”に手を伸ばし、ほほえんだ。可愛い、見慣れた「顔」だ。

・カードC077を獲得します。

P087

君は杯をじっくりと見て、注意深く怪しい液体の匂いをかいだ。その瞬間、君は自分の手が何者かに操られたように感じた。君は杯を口元に持ち上げ、余さず飲み始めた……みるみるうちに、体が元気を取り戻す。

・カードC084を捨てます。

・アクショントークン2個を獲得します。

P088

君は目覚める。君は床に描かれた魔法陣の上にいる。誰が、どういう目的でそれを描いたのか、わからない。

君は廊下へ移動し、子供部屋に見えるところを通り過ぎた。君はほとんど不快な状況に圧倒されていく。

ここは誰の家だ? 僕はなんでここにいる? 電話が鳴ったが、君はそれを無視する。誰かの必死の声が、自動応答ごしに聞こえる。

「コワルスキーさん、直ちに病院に来てください。貴方のお嬢さんが……目覚めました! 娘さんに代わりますよ……リジー、お父さんは留守のようだけど、何か残したいメッセージはあるかな?」

「お父さん! 大好きだよ!」

君は頭を振った。

一瞬、君は思った。子供がいたらよかったのに。

・おわり

P089

君は目覚めた。どうやら地下室に描いた魔法陣の所に戻ってきたようだ。さっそく家を出て、病院に向かう。娘の病室に入ると、娘はベッドの端に座っていた。娘が目覚めたのだ! 君は駆け寄り、娘を抱きしめた。君は娘とまっすぐ見つめ合った。こんなに嬉しそうな娘は見たことない。

「お父さんが助けてくれたのね! 私、全部知っているよ。お父さんが頑張ったこと!」君の顔に驚きの表情が浮かぶ。

「リジー、知っているって……?」

「全部! お母さんのこと、お父さんのこと。お父さんが私を救うためにやってきたこと。“カドリーさん”を渡したこともね!」

君は言葉を失った。何を話せばいいか、どう反応すればよいか、わからなくなった。しかし、娘の話は終わっていない。

「お父さん、私はもう平気だよ。だからね、一緒にお母さんを助けに行こう!」

・おわり

P090

君は妻と担当医に近づいた。2人は何も話さないが、さるぐつわをはめられているわけではなさそうだ。鎖を壊して2人を解放しようとしたが、力不足だった。違う方法を探さねばならない。

・カードC054を獲得します。

P091

君がその番号を入れると、電話から自分の声が聞こえてきた。「もしもし、ジェニファー。可愛いあの子が心配なんだ。リジーは今、ちょっと具合が悪いらしい。リジーを病院に連れて行ってほしいんだ。よろしくね、愛してるよ!」

君はリジーが突然の疲労に何度も襲われたときを覚えている。リジーはまだまだ小さな子供だった。これはジェニファーが死ぬ前のことだった。こんなこと、忘れられやしない。突然、君の思考は風の音によって遮られた。窓に嵌まっていた格子戸が開いたようだ。

- ・カードC013、C103を捨てます。
- ・カードC028を獲得します。

P092

ジェニファーは君の腕に身を投げ出し、君を力の限りに抱きしめた。「私は間違えたの、でも今なら全部やり直せる」彼女は悲しみを振り払うように言った。そしてリジーの小さな哺乳瓶を取り出した。「私に残されたのはこれだけ。リジーのものよ。持って行って、お願い」

君は哺乳瓶を受け取った。君はジェニファーにお礼を言おうとしたが、彼女の目が急に虚ろになった。彼女が哺乳瓶とともに、魂の最後の一片を渡したかのようにだった。彼女はそれ以上何も反応しなくなり、茫然と鏡を見つめている。

- ・カードC066を捨てます。
- ・カードC090、C106を獲得します。

P093

君は「本」のページをめくった。儀式のためにあといくつか必要なものがある。魔法陣を描く道具、数本の口ウソク、捜したい人の大事な物。前の2つの品は問題なさそうだ。チョークは机の上にあったはずだし、口ウソクは金庫の中にある。しかしもう一つは……。リジーが大切にしていた物は、何だろう。

- ・カードC017を獲得します。
- ・調べたいエリアにアクショントークンを置いて、該当する番号の文章(パラグラフ)を読み上げてください。

P094

君は暗闇に飲み込まれ、気がつくと屋根裏部屋の中に入った。君以外にも誰かがいる。ぞっとすることに、君の知っている2人が鎖で壁につながれている。ジェニファーとリジーの担当医だ。まず、君は2人に近づこうとした。2人は口を閉じたまま、目玉を動かして何かを訴えようとしていた。2人の視線を辿ると、その先にある部屋の両端のガーゴイルに気づいた。

- ・現在の場面カードとマップカードを、使用済みトークンと一緒に捨てます。
- ・もし持っているなら、カードC068、C090を捨てます。
- ・場面カードL02、L05を獲得します。
- ・カードC040を獲得します。
- ・マップカードに従い、場面カードを配置します。
- ・アクショントークン1個を獲得します。

P095

壇上には便器があり、まるで玉座のようだ。両端にそれぞれドクロがある。

「ああ、お前か。来ると分かっていたよ。その他にこの記憶を訪ねる人間などいないからな」

「黙らんか! 人間に話かけるな。キーパーが怒るぞ」

もう1つのドクロが激怒して叫んだ。その怒りを無視して、最初に話しかけたドクロが君に続けた。

「我らは王笏を失くしている。お前、それを見たことはないか?」

- ・もしカードC051を持っているなら、P061へ。

P096

倒れている容器から色付きの液体が漏れ落ちて、汚れた浴槽に流れている。容器を立て直してみたが、いきなり風が吹いてきて容器は再び倒された。その液体はいつまでも、絶えずこぼれ続けるのだろう。

- ・カードC088を獲得します。

P097

君が時計の針を正しい位置に合わせると、すべての時計が作動した。鳩が扉から出てくる。しかし最後の時計に、鳩はなかった。その代わりに、小さな本が扉から落ちてきた。

- ・カードC020、C043、C060、C108を捨てます。
- ・カードC112を獲得します。

P098

呪文の詠唱が終わった。周りの空気がどんどん重くなっているのがわかる。そして地下室の温度も上がっているように感じる。ぼんやり見える奇妙な生物たちが、君に近づいてくる。君がまばたきをした瞬間に、それらの姿は消えた。君は独り、知らない場所に残された。

- ・未使用のアクショントークンをすべて捨てます。(未使用のトークンを捨てるのは今回のみです。次の場面からは未使用のトークンは持ち越します)。
- ・これから「アプリを確認してください」は表示されません。謎マークのカードが現れると、アプリを確認してください。
- ・カードC017、C025、C047、C107を捨てます。
- ・現在の場面カードとマップカードを、使用済みトークンと一緒に捨てます。
- ・アクショントークン1個を獲得します。
- ・P015へ。

P099

君はリジーが大好きだったクレヨンに手を伸ばした。娘はそのクレヨンで生まれて初めての絵を描いたが、君が誤ってジュースをこぼしたせいで、娘の作品が台無しになってしまった。今でも娘の涙と恨みの視線が忘れられない。娘があそこまで怒ったことはない。君はお詫びのしるしに全色揃いのクレヨンセットをプレゼントしたが、彼女は相変わらず、この1色のクレヨンで絵を描くことが多かった。

- ・カードC117を捨てます。
- ・カードC045を獲得します。

P100

君は娘の薬が入った褐色の薬瓶を取り出した。もしかすると、もう一度薬を信じるべきかもしれない。キーパーは薬に興味を示した。

「それを渡してもらおうか。そうするなら、この俺が彼女の担当医になろう」

彼は君の手から薬を取って、リジーに向かった。瓶を開けて、手のひらに薬をいくつか出す。リジーの頭を後ろに倒して口を開けさせた。口の中に丸薬を一錠落として、首をマッサージして飲み込ませた。君は何か変化があるかもしれないと、希望を抱いたまま娘を見つめていた。

「なぜ反応がない!」

「薬が効くまで時間が必要なさ! もちろん看病も必要だ。君の娘は運が良かった。お父さんが偽物のお母さんを信じていたら、どうなったと思う? 彼女には本当のお母さんの助けが必要なんだよ」

彼はそう言いながら指をさす。その先にいるのはジェニファーだった。彼女はリジーに体を寄せている。

「もう起きてもいいのよ、リジー。この世界では、何もかも上手く行くはずだから」

君は妻の声を聞きながら、気を失った。

- ・P057へ。

P101

床には徐細動器(心臓に電気ショックを与える機械)があった。典型的な医療機器に見える。スクリーンに映った凍りついたような心電図は、ほとんど鼓動も聞こえないレベルに思える。君がその機械のボタンを押すと、一瞬だけ鼓動が戻ったように見えた。

- ・カードC002を獲得します。

P102

暗闇の中を落ちていく。

「お前は独りじゃない。失敗した奴はごまんという。皆ここへ落ちるのさ。哀れな魂たちは己の記憶の中をさ迷いながら、自分がなぜ失敗したか考える。やがてすべてを忘れて、最初からやり直すか、いつもまったく同じ過ちを犯してしまう。永遠にそれを繰り返すのさ!」

彼の声が聞こえる。キーパーはこの場所を去ろうとしている。君は彼を捕まえようとするが、体が重い。何かに引っ張られるようだ。

「待ってくれ! 僕の記憶から、必ず探し出すよ。正しい対価を!」

君はそう叫んだが、誰も返事はしてくれなかった。

君はデジャブを感じている。この瞬間を何度も体験した……

- ・おわり

P103

番号を入れて、ゆっくりと分厚い金庫の扉を開けた。中には新たな「ポータル」があった。君は振り向いてジェニファーを見たが、彼女はまだ鏡を見ながらハミングを続けていた。君はどうすべきか確信できなかった。彼女を残して先に進んでもいいのだろうか?

- ・カードC005、C008、C065、C080、C087を捨てます。
- ・C036を獲得します。

P104

君は新たな「ポータル」に入った。溢れる青と赤の光は、救急車を連想させた（訳注：本作の舞台である、ポーランドの救急車の色です）。

「発見された時から、この状態でしたか？ 服用されているお薬はありますか？」医者の声を暗闇の中で聞いた。

「偏頭痛の薬を。彼女には持病があって……薬の飲み過ぎでしょうか、先生？」

その問いは宙に投げ出されたままにされた。君はジェニファーを風呂場の床で見つけた時のことを思い出した……気づくと「ポータル」から出ていて、騒音も消えていた。君は自宅のキッチンに妙に似ている場所にたどり着いた。君は自分が通ってきたであろう入口を見たが、キッチンシンクの下の戸棚には、「ポータル」の代わりに小さな階段があった。

- ・カードC071を捨てます。
- ・現在の場面カードとマップカードを、使用済みトークンと一緒に捨てます。
- ・もし持っているなら、カードC013、C028、C058、C064、C103を捨てます。
- ・場面カードL04、L11を獲得します。
- ・カードC100を獲得します。
- ・マップカードに従い、場面カードを配置します。
- ・アクショントークン3個を獲得します。

P105

床の緑色の粘液は、キーパーが唯一残していったものだ。これと似た液体を見たことがないか考えた……もしあったとして、何ができるか。

- ・もしカードC084を持っているなら、P087へ。

P106

子供が描いた家系図のようだが、ひとりだけ消されている。なぜか没年と顔が焼かれている。

- ・カードC004を獲得します。

P107

部屋の隅には閉じた棺がある。開こうとしても蓋は動かない。近くで調べてみると、板に小さな割れ目があることがわかる。

- ・カードC120を獲得します。

P108

壁の黄色い付箋が目についた。君はこれと同じものを、冷蔵庫に貼ってジェニファーへの伝言を残すために使っていた。しかしこの付箋には文字は書かれていなかった。そしてどういかわけか、ピラミッド状に並べられている。

- ・カードC061を獲得します。

P109

「お父さん？」

静かな声が聞こえる。

君はキーパーと共に病室にいる。リジーはベッドの端に座って、ごしごしと目をこすっている。君は駆け寄り、リジーを抱きしめた。

「お父さん、どうしたの？ 私どのくらい寝ていたの？ お母さん！ お母さんがいる！」君は驚いた。君の側にジェニファーがいた。何か間違っている。彼女は死んだはずだ。そしてリジーの姿が9歳に戻っているのは何故なんだ？

「お前が支払った対価では、家族と再会する事はできても、現実で生きることはできない。お前はあまりにも大事な思い出を放棄した。だからこそ、お前たちは俺たちの世界に留まるしかない」

キーパーはそう言いながら、病室の壁に手を触れ、幻影を映した。幻影は魔法陣の中で、倒れている君の姿を映し出した。

「やめろ、やめろ！」

君は抵抗しようとするが、ジェニファーが君の片手を掴んだ。リジーがもう片方の手を掴む。娘と妻の手から温もりが伝わる。君は抵抗を諦めた。確かにこの世界なら、幸せになれるかもしれない。

- ・おわり

P110

幅広い帯状の模様が壺をぐるりと一周し、幾何学的なパターンを表している。君が少し観察したところ、模様の中に数字が見えた。

P111

君はこれをどこかで見たことがある。リジーの薬が入った瓶だ。散らばっている薬の中にも同じ薬が混ざっていたかもしれない。

「時が来たら、それを飲むのよ」ジュニファーが話す。

「これはいったい、なんだ？」君はためらいながら訊いた。

「ザミュエル、私を信じて。私だって全部話したいの。でもダメ。あいつらに聞かれるかもしれないわ」

彼女は神経質に周りを睨む。まるでそこに盗み聞きする誰かがいるかのように。次の瞬間、彼女の体が硬直して、それきり何も話さなくなった。眠ってしまったように見える。

- ・カードC050を獲得します。
- ・カードC006を捨てます。

P112

鳥の楽しそうな鳴き声が浴室に満ちる。この部屋の鳩時計の1つが、その音を発していると付き止めた。一方時計の部分は、正しく時間を差すには程遠い。

- ・カードC020を獲得します。

P113

調理台や棚の上にフラスコが置いてある。

それは君が小さなリジーと遊んだ、ちゃちな化学実習セットのようだ。それぞれのフラスコには意味のわからないラベルが張ってある。

- ・もしカードC085を持っているなら、P142へ。

P114

君が窓を見ると、星の輝く夜空を見ることができた。もう夜になってしまったのだろうか？空の雲は動かず、近くで見るとこれが描かれたものだと分かった。窓から離れると、ハンドルを挿す穴を見つけた。興味深い……これを開けば何が起ころうか？

- ・もしカードC042を持っているなら、P156へ。

P115

君はポケットから、自分の誕生日プレゼントを取り出した。キーパーは喜んで頷いた。それがほしらしい。

「お前の誕生日プレゼントを渡すのか？これはありがたい。なんて思いやりのある男だ。さあ、これがお返しだ！」

彼は娘のベッドを指さす。娘がゆっくりと目を開け、周囲を見渡した。

- ・P170へ。

P116

ゴミの間に光る物があった。君は近づいて、その山から歯車を取り出した。これをどこで使えるだろうか。

- ・カードC105を獲得します。

P117

君は手に入れた鍵を使って、引き出しに掛かった錠前を開けた。君の予想通り、中には白いチョークがあった。儀式に使えるぞうだ。

- ・カードC012、C122を捨てます。
- ・カードC047を獲得します。

P118

もう1つのベッドはジョンのものだ。ジョンはリジーと同じ年の少年で、君の娘より少し前から入院していた。2人はすぐに友達になり、何時間もお気に入りの本の話をしてきた。ジョンは退院してからも、よくお見舞いに来てくれていた。

P119

答えを大きな声で言うと、ベッドに隠された秘密の隠し場所が開いた。君は手を伸ばし、中にあったひと袋のベビーフードを取り出した。

- ・カードC068、C090を捨てます。
- ・カードC049を獲得します。

P120

開いている引き出しを開けてみたが、空だった。他の引き出しを掴んだら、なんと電話が鳴り出した。君はそれを取り、答えた。

「もしもし？」

聞こえるのはザーザーという雑音だけ。電話は通じているのだろうか？君は中央に目の印が書かれた電話のダイヤルを見た。リジーの担当医の名刺を取り出し、その番号を入れてはみた。聞いたかった声は聞こえず、電話番号が使われていないというメッセージだけが流れた。

- ・カードC013を獲得します。

P121

君はキャビネットの小さな扉から転げ出て、次の部屋にやってきた。振り向くと、いつのまにか扉には錠前がかけられていた。この部屋は君とリジーの2つの寝室を組み合わせたようにも見える。ベッドでジェニファーを慰める君の姿が思い浮かぶ。何度も子供を授かるうとして、叶わなかった頃だ。が、ジェニファーはついに身ごもり、医者たちを驚かせた。医者によると彼女は子供を産めない体だったそうだ。

- ・カードC023を捨てます。
- ・現在の場面カードとマップカードを、使用済みトークンと一緒に捨てます。
- ・もし持っているなら、カードC003、C018、C067、C072を捨てます。
- ・場面カードL12、L17を獲得します。
- ・カードC074を獲得します。
- ・マップカードに従い、場面カードを配置します。
- ・アクショントークン4個を獲得します。
- ・アクショントークン1個を、B3に置きます。
- ・P074へ。

P122

木が割れる音が部屋中に響く。見る間に割れ目が広がっていく。やがて棺の蓋は真っ二つに割れ、真っ暗なトンネルがあらわれた。その先には次の「ポータル」があった。君は部屋に残ることも、旅を続けることもできる。

- ・カードC120を捨てます。
- ・カードC023を獲得します。

P123

天井からぶら下がった首吊り縄は、言いようもなく不気味だった。縄の1つは途中で切れており、引きちぎられたように見える。

- ・カードC073を獲得します。

P124

君は金庫のダイヤル錠に暗証番号を入力した。その中から踏台が見つかった。

- ・もし持っているなら、カードC069、C070、C079、C095、C110を捨てます。
- ・カードC032を獲得します。

P125

君は“カドリーさん”を手を取った。娘が大好きだったぬいぐるみだ。それは娘の4歳の誕生日に、妻がプレゼントした贈り物だった。家族で出かける時はいつでも、リジーがぬいぐるみを持っていくことを思い出した。ジェニファーが君を残してこの世を去ってからは、リジーはそのぬいぐるみにより執着することになった。不思議だ。結局“カドリーさん”が箱に置き去りにされた理由は何だろう。

- ・カードC117を捨てます。
- ・カードC107を獲得します。

P126

魔法陣に変化はないように見える。「本」が中心に置かれている。君にはそのページが、見えない風によってゆっくりとめくられているように見えた。君は身を乗り出し、揺れるページに触れたが、何も起こらなかった。

P127

リジーのベッドを見ていた君は、旅は今始まったばかりだと気づいた。後ろから吹きつける突風を感じる。振り向くと、鏡のあった場所に「ポータル」が開いていた。残念なことに、その向こうは見えない。君は「本」で、このような通路について読んだことがある。それを一度通ったなら、引き返すことはできないという。前に進むか、それともまだここを調べようか？

- ・カードC022を捨てます。
- ・カードC094を獲得します。

P128

壁にあったメモを剥がすと、「あいつらを信じないで」と書いてある。君は先ほどキーパーの1人とした会話を思い出した。キーパーが君をここに残していったのは、好都合だったのではないか？

P129

壁にチョークで方程式が書かれている。これは君が書いたものだ。リジーから何かを隠すための暗号だろう。そう思いながら、君は思わず笑いだした。リジーは元々数学が苦手だったが、君が数字の入った謎を教えたことで、すぐ数学の成績が上がったのだ。

- ・カードC035を獲得します。
- ・これは謎カードです。アプリを確認してください。

P130

君はルシアンに、変貌した“カドリーさん”を見せた。ルシアンは喜びの笑顔を浮かべた。

「近くにいるはずだと思ってたんだ。見つけてくれて、ありがとう!」

ルシアンは“カドリーさん”を君から受け取る。彼のまなざしは、そのおもちゃが今にも動き出すと思っているかのようだった。

「コイツは眠っているみたいだな。記憶の世界に長く居過ぎたんだ、目を覚ますにはもう少しかかるだろうな。おもちゃはそういうものさ……人間も変わらないけどな」ルシアンは少しの間君をじっとにらんだ。「せいぜい頑張りな、お前さんはまちがいない方へ向ってるよ」彼はそう付け加えると虚空に溶けていった、“カドリーさん”と共に。

- ・カードC016を捨てます。
- ・アクショントークン2個を獲得します。
- ・もしB2が空いていれば、アクショントークン1個を獲得し、そこに置きます(調べたことにはならず、P025には進めません)。

P131

壁に持たせかけられた庭仕事の道具は、もう古くて使い物にならない。君は一度それらを直すか、買い直す計画もしたこともあるが、結局なにもかも放置してしまった。君は堅そうなシャベルを持ち上げたが、柄は外れてしまっていた。そのせいでシャベルの頭が床に落ちて、ガチャンと音を立てた。

P132

番号を打ち込むように触れると、金属の音が聞こえた。電話のそばの引き出しが、飛び出してきたのだ。中には窓のハンドルがあった。君は格子戸を見てみたが、ハンドルが使いそうな場所はなかった。

- ・カードC028、C116を捨てます。
- ・カードC042を獲得します。

P133

君はリジーの哺乳瓶を取り出した。それを見つめながら、ジュニアの言葉を思い出した。これが役に立つに違いない。妻はこの瞬間が来ると分かっていたのだろうか? 君はキーパーを見た。彼は物ほしげに瓶を見つめている。

「これをあなたに渡したら、娘を返してくれるのか?」

「君が失くしたことのない何かを手に入れるだろう」彼は謎めいたことを言った。「君は幸せになる。約束しよう」

君は哺乳瓶を渡した。周りの空間がよりはっきりと見えるようになり、この病室が現実味を増していく。

「まさか娘の赤ん坊の頃の記憶を渡すのか。ミルクを飲ませる母の記憶、赤ん坊をあやそうとする不器用な父の記憶。そのような記憶を渡すには大いなる勇気が必要なのだ」

キーパーは声を小さくした。

「が、どうかしている。俺たちに家族のすべてを託すとはなし!」

- ・P109へ。

P134

「君を許すことはできない、すまない……」身を切るような思いで、一言一言を告げていった。

「わかっていたわ……ごめんなさい、他にどうしようもなかったの。私は家族を幸せにしたかった……」彼女は君に言った。涙が彼女の頬を、ふたたび伝った。一步下がった彼女は、また君とは別世界のものに感じられた。

「私はあの子にできるだけのことをしたけど……あの子の一番はあなただった、これを持って行って」ジュニアは一枚の写真を渡した。リジーはこの写真に「世界一のお父さん」と書き添えてあった。君は彼女にお礼を言おうとしたが、ジュニアに君の言葉は届かなかった。彼女は死んだように、動くことなく目の前の鏡を見ている。

- ・カードC066を捨てます。
- ・カードC027、C090を獲得します。

P135

鏡の映像に、君は不安を覚えた。君だけがいなくて、この部屋の品々の残りはすべて映している。君はここに存在しないようだ。君は鏡に歩み寄る。鏡はすこし、現実と違う物を映していた。

- ・カードC029を獲得します。

P136

ポータルの向こうにたどり着くと、そこはリジーの子供部屋だった。ジェニファーが部屋の真ん中にたたずみ、子守唄を口ずさんでいる。君は歯をくいしばった。リジーが生まれて2カ月のころは、娘の世話はジェニファーに任せきりだった。君は忙しすぎて、子供部屋を覗くことすらできなかった……。

「ジェニファー……」

話しかけてみたが、君の声は聞こえていないようだった。

- ・場面カードL08を捨てます。
- ・場面カードL09を獲得します。
- ・カードC019、C055を獲得します。
- ・マップカードに従い、場面カードを配置します。
- ・アクショントークン2個を獲得します。

P137

キャビネットとテーブルには鎖が固く巻きついていて、動かすことはできないようだ。鎖にかけられたダイヤル錠に、メモが付いている。

- ・カードC083を獲得します。

P138

君が通ってきた食器棚を覗いてみたが、戻る道はなさそうだ。下に続く階段に見えたものは、実は子供の絵だった。壁に触れてみたが、今は語りかけてきたり、通してくれるわけではなかった。

P139

これらの薬は、君が倒れたジェニファーを発見した現場を連想させる。床に倒れた妻、そして散らばっている色とりどりの薬……確か慢性偏頭痛の薬だった。彼女が意識を失った時、瓶からこぼれたのだろう。

P140

これは幻か! 目の前の壁にはリジーがお気に入りのクレヨンではじめて描いた絵があった。君が仕事で忙しいときに、ジュースを一杯こぼして台無しにしてしまったものだ。ここで見つけられるリジーの持ち物は、他に何があるだろうか。

- ・カードC063を獲得します。

P141

クマのぬいぐるみの“カドリーさん”を、キーパーに渡した。彼はぬいぐるみを様々な角度から観察し、その価値を計っているように見えた。

「リスを目覚めさせるなら、これを俺にくれるのか?」

「リジーだ」君は娘の名前を訂正した。

「そうそう、リジーだったな」キーパーは素直に訂正を受け入れた。

「これは彼女にとってすごく大事なおもちゃだぜ。下手すると、人生で一番大切な物かもしれないぞ? しかし、もうお前は選択してしまった」

そう言いながら、彼は指を鳴らした。

- ・P089へ。

P142

持っていたレンピのお陰で、フラスコのラベルを読み解くことができた。君は2つのフラスコを取り、注意深く混ぜた。出来上がった青い物質からは良い匂いがして、君はつい味見したくなった。リジーのお気に入りのキャンディの味がした。

- ・カードC085を捨てます。
- ・アクショントークン2個を獲得します。

P143

「ポータル」を通るとき、胃がよじれる感覚を覚えたが、長くは続かなかった。ふと気がつくと、驚いたことに君は再び魔法陣の中に立っていた。周囲がわずかに波立ち、ぼやけ始めた。

「記憶を渡る旅は、初めてかい?」

後ろから声が聞こえてきた。黒いカーテンの後ろから、何かが姿を現す。そいつはゆっくりと実体化し、君にわかるのはその大まかな輪郭だけだった。

「これはお前のもんだろう」ちんにゆうしゃ 闇入者は言って、一枚の紙を君に見せた。君はそれが「本」からちぎり取られたページだと気づいた。

- ・カードC094を捨てます。
- ・現在の場面カードとマップカードを、使用済みトークンと一緒に捨てます。
- ・もし持っているなら、カードC002、C010、C061、C063、C109、C113を捨てます。
- ・カードC014を獲得します。

P144

心電図のモニターに、信号が繰り返し示されていた。ずっと動き続けている、誰かの心臓を表しているようだ。色とりどりの心電図に目がくらみながら君は不安になった。この機械は誰ともつながっていない。そればかりか、ケーブルは中ほどで切断されていた。

- ・カードC109を獲得します。

P145

その生き物は君を見た。彼の顔には当惑が見えた。

「ああ、キーパーを信じちゃいけないと教わったんだな。いいと思わず。あいつら、ちょっと意地悪なところがあるからな」彼は言い、「本」の頁を丸めると、それは君の目の前で跡形もなく消えた。「俺は友達を探しているんだが、俺を助ける気はない、ってことだよな？」

君は何も言わなかった。キーパーは肩をすくめた。

「それでいいんだな？ なら、もう行くぜ……そうだ、ジェニファーよろしくな」

君は目を大きく見開き、大声で問い返したくなった。しかし、その影は黒いカーテンの向こうに消えてしまった。君はひとり取り残された。あいつを追う、それしかない。

- ・カードC014を捨てます。
- ・場面カードL03、L14を獲得します。
- ・カードC031を獲得します。
- ・マップカードに従い、場面カードを配置します。
- ・アクショントークン4個を獲得します。
- ・アクショントークン1個を、D2に置きます。
- ・P011へ。

P146

窓から満月を見た君は、時間の流れについて考えた。ここに来てどのぐらい経っているだろう。数時間？ 数日？ あるいは数年？ 君は「本」に、異次元では時間の流れも違うと書かれていたことを思い出した。

P147

浴室の隅から、ドアがゆっくり開く時のような、何かが軋む音が聞こえる。鳩時計の鳩が外に出ようとして、無駄なあがきをしているようだ。

- ・カードC043を獲得します。

P148

君は正しい暗証番号を合わせて、ダイヤル錠を開けた。箱にはリジーが幼い頃大好きだったおもちゃが収められている。何もかも娘の思い入れが深い品だ。娘は自分の持ち物を大事にしていて、大人に触れさせてくれなかった。だからこそ、君はリジーにとって一番大切な持ち物が何なのか、わからない。

- ・カードC011、C089、C101を捨てます。
- ・カードC117を獲得します。

P149

「お前は完璧なお父さんにはなれなかったらしい」

キーパーはそう告げた。

「娘を返してくれ！」

「リジーは自由だ。君は己の有り様を捧げて、リジーを俺たちの支配から解放した。その代わりにお前はここに残るのさ、サムエル君。これからお前とお前の記憶はこの世界の物だ」

君は抗議しようとしたが、口から声が出ない。病院が消えて、気づくと君は再び「ポータル」に戻っていた。君は終わりなき奈落の奥へと落ちていく。どこまでも深く……見なれぬ地獄の世界へ。

- ・おわり

P150

床の上に置かれているカーベットは色とりどりの不可解な文様で飾られている。君はこれと似た物を見たことはないだろうか？

- ・カードC070を獲得します。

P151

君はジェニファーの死亡診断書を取り出した。キーパーはその文書を見ているが、これをどうすればよいか、わからないようだった。

「確かに彼女は昔、儀式を行ったよな？ 彼女の記憶を覗いてみたよ。彼女は妊娠できない体だった。彼女は子供ができればお前が喜ぶと思った。だから儀式をやった。そして今まで儀式を行った奴らと同じく、失敗してしまったのさ。自分の夢を渡した結果、正気を失い始め、最後には自殺することになった。そして今、彼女の死亡診断書を俺に渡す？ これはとても大事な記憶だぞ。誰かが死ぬと、まず生きていたときの……」

「リジーを救うには充分じゃないと？」君は不安になった。

「リジーは心配するな。生者の手にある。お前もな。が、お前の妻は……お前は彼女の記憶を差し出した」キーパーは指を鳴らした。

- ・P071へ。

P152

金庫の隣にクモの巣に覆われた椅子があった。君はクモの巣を払い、椅子に書かれた一文を読んだ。

- ・カードC102を獲得します。

P145
P146
P147
P148
P149
P150
P151
P152

P153
P154
P155
P156
P157
P158
P159
P160
P161

P153

リジーは部屋の回転木馬を見るのが好きだった。回転する馬と蝶々を見せると、娘はすぐに眠りについた。恐ろしいことに、今は蝶々の代わりにカミソリの刃がついていた。

- ・カードC005、C008、C065、C080を獲得します。

P154

君は娘の担当医に続いてマンホールの奥底へ向かった。少し降りると、君は再び地面に着いた。気づくとそこは浴室だった。君の目の前には床に座っているジェニファーがいて、そばに薬が散らばっている。君はデジャブを感じる。彼女が息絶える寸前の瞬間が再現されているようだ。

「ジェニファー、本当にジェニファーなのか？」

君は優しく話しかけた。だが、君の妻には何も聞こえていないようだ。

- ・カードC119を捨てます。
- ・現在の場面カードとマップカードを、使用済みトークンと一緒に捨てます。
- ・もし持っているなら、カードC009、C048、C082を捨てます。
- ・カードC059を獲得します。
- ・場面カードL07と、L16を獲得します。
- ・場面カードをマップカードの指示通り配置します。
- ・アクショントークン2個を獲得します。

P155

君は以前見つけたドクロを、噴水の頂点にある黄金の下あごに取りつけた。水面が輝き、君に映像を見せる。病院のベッドで眠っているリジーだ。一瞬、彼女が眠りながらも笑っているように見えた。

- ・カードC078を捨てます。
- ・アクショントークン2個を獲得します。

P156

君はハンドルを取り出して、穴にはめ込んだ。開いた窓からかすかな風が入り込んでくる。

リジーのささやきが風にまじって聞こえてきた。

「父さん、母さんを怒っちゃダメ。ぜんぶ私たちのためだったのよ!」

君は外を見ようとしたが、急に風が吹き、窓がびしゃりと閉じた。窓は二度と開かなかったが、娘の声は君にとってわずかながさめになった。

- ・カードC042を捨てます。
- ・アクショントークン2個を獲得します。

P157

君がダイヤル錠に番号を合わせると、鉄格子の扉が開いた。君は狭い通路を這っていく。君が向かう先に「ポータル」が見える。君は止まった。迷いが生じたのだ。ジェニファーを置き去りにして前に進むのか？ 彼女の元へ戻るべきではないか？

- ・カードC053、C088を捨てます。
- ・カードC075を獲得します。

P158

クモの巣の下に、3枚のコルクボードがあった。紐に覆われ、文字が記されている。これを作ったのは狂人に違いない。君はそれらを壁から取り、架かっていた通りに並べてみる。交差する紐がもつれないように、気を付けなければならなかった。

- ・カードC009、C048、C082を獲得します。

P159

リジーを治すためなら何でもする。覚悟を決めて郊外の自宅に戻った君は、急いで地下室に入り、「本」を開いた。儀式のためには、広い空間といくつかの道具、そして沈黙が必要だ。

- ・場面カードL01と、L18を獲得します。
- ・カードC099を獲得します。
- ・マップカード(C099)に従い、場面カードをゲームボードに配置します。
- ・アクショントークン6個を獲得します。
- ・アクショントークン1個をB2の上に配置します。
- ・B2に該当する本書のP093に進みます。

P160

君はリジーのベッドの端に腰掛けた。覚えている通りだったが、1つだけ違うところがある。金属でできた装飾部分だ。近づいてみると、その装飾には数字に見えるものもあった。

P161

最後の瞬間、君は冷蔵庫の扉を掴んで全身を押し込もうとした。非常に手こずったが、何とか冷蔵庫は開ききった。中には新たな「ポータル」があった。君はすぐに医者に向き直った。

「お待ちせしました。もうお話できます」君はそう言おうとしたが、部屋にはもう誰もいなかった。そして冷蔵庫から流れるジェニファーの子守歌は、どんどん大きくなっていく。

- ・カードC062を捨てます。
- ・カードC093を獲得します。

P162

光によって水に色がついているのを見た君は、昔、似たような噴水を、テーマパークで見たことを思い出した。リジーはそれをいつまでも見ていた。おとぎ話をモチーフにしたその噴水の頂点には、にっこりと笑うキャラクターの彫像があった。君の前にあるものは、異なる装飾が施されている。頂点にあるのは、金色の下あごだ。

・カードC078を持っているなら、P155へ。

P163

リジーのおもちゃを入れたこの箱は、この数年間開けられた事もない。箱のすぐ前に娘の自慢の謎の一部が書かれている。まったく、賢いお嬢さんだ。娘はこうやってダイヤル錠の暗証番号を隠して、自分のお宝が見つからないようにした。ダイヤル錠を引っ張っただけでは何も起きない。別の方法を探さなければ。

・カードC101を獲得します。
・これは謎カードです。アプリを確認してください。

P164

君はソールボードを見て分かった暗号を金庫に入力して、ハンドルを回した。扉は小さな音を立てながら、開いた。中には口ウソクと共に、拳銃があった。君は自分が拳銃を入れたことを忘れていた。まあ、使うことはないだろう。

・カードC035、C076、C098を捨てます。
・カードC025を獲得します。

P165

両親の家にあった、見覚えのある牡鹿の骨が飾られていた。父親が君と狩りに行った時の獲物だ……しかしよく見ると、奇妙なところがあった。誰かが追加の角を、緩いネジで元の角に留め、それらの「加工」の先に番号が振られている。それだけでは飽き足らなかったのか、頭骨にはオカルトじみた印がある。

・カードC058 を獲得します。

P166

錠前は不思議な形をしている。錠穴や数字はない。あらゆる角度から見てみたが、どうやって開けるか、見当もつかなかった。

・カードC121を獲得します。

P167

君は暗証番号を入力して、鉄格子の扉を開けた。君は暗い通路に這い込んだ。通路の先には踏台が1台あった。その踏台には何か書き込まれている。君はそれを持って部屋に戻った。

・カードC069、C070、C079、C095を捨てます。
・カードC032を獲得します。

P168

地下室の扉の近くに長い棒が落ちている。それはかつて居間の飾りテーブルの脚だった物だ。君は妻の訃報に怒りを抑える事ができず、そのテーブルを壊したのだ。それ以来君は一度もそれを直そうとしなかった。これをどこかで使えないだろうか。

・カードC057を獲得します。

P169

ダイヤルを正しい位置に合わせると、冷蔵庫の扉が跳ねるように開く。強さを増してゆく白い光の奔流が扉の隙間からあふれて来る。冷蔵庫から、耳に馴染んだハミングが聞こえてくる。ジュニアファーがリジーのお気に入りの子守唄を歌っている! 誰かが冷蔵庫の扉に手をかけ、ついであつたりした手術服が目飛び込む。リジーの担当医が冷蔵庫から出てくると、扉はゆっくりと閉まって行く……。

・カードC030、C052、C073、C086、C091、C115を捨てます。
・カードC062を獲得します。

P170

「リジー、お父さんだよ!」

君は叫びながら彼女に向かって飛び出した。しかし、娘は君の存在に全く気づいていないようだ。君は自分がまだ違う次元にいとわかった。

「娘の所に行かせてくれ!」

君はキーパーにそう懇願したが、彼は頭を振るだけだった。

「お前は誕生日の贈り物を、つまり自分の記憶を差し出した。それで生きていけると思ったのか? サミュエル君、お前はこれからここで暮らすんだ。世界の狭間で」


「よくもそんなことを!」君は叫んだ。君はキーパーを捕まえようとしたが、彼は消え去った。君は娘の幻影と共に取り残された。

君が虚無の空間に捕らえられていても、現実世界の日常は続く。君は異次元からリジーを見守る。娘は退院して、学校に戻った。そして行方不明になった父親を捜し続ける。それらすべてを見る君の目から、涙が流れる。その涙が止まることはなかった。

・おわり

P171

近くの何かが、突然床で音を立てた。視力検査用の用紙の下に、半分に割れたウィジャ盤が落ちてきた。霊と交流するために、このようなものを使うことがあるらしい。この板には文字が印刷されており、幽霊が生者の質問に答えるために使うのだ。

- ・カードC010、C061を捨てます。
- ・カードC033を獲得します。
- ・マークがついたカードを持っているなら、P127へ。

P172

配置を完成させると、即座にカーペットの表面が変化していくのが見えた。まるで誰かが、見えない針で作業しているようだった。少しして、刺繍でできた色とりどりの図形やパターンが布に現れた。

- ・カードC056を捨てます。
- ・カードC095を獲得します。

P173


君は答えを大声で口に出し、ドクロが黙ることを願った。彼らはその言葉に反応し、静かにこちらを見つめた。

「俺は一番だって分かってたぜ! 俺を連れていくといい、お前にはその資格がある」ドクロの1つがこう言い、黄金に変わった。君はそれを拾い上げた。重たいが、しかし役には立ちそうだ。

- ・カードC003、C072を捨てます。
- ・カードC078を獲得します。

P174

かすかな、こするような雑音が聞こえてきた。鏡が傾きでもしたのだろうか。見ると鏡はぼやけ、急にサウナに入った鏡のようになっていた。拭ってはみたが、無駄だった。鏡に映った光景は、依然ぼやけたままだ。

- ・カードC029、C044を捨てます。
- ・カードC022を獲得します。
- ・もし  マークがついたカードを持っているなら、P127へ。

P175

ジェニファーの宝石箱が開く。中には、高価な宝石の代わりに……トイレ用のラバーカップが入っていた。

- ・カードC064を捨てます。
- ・カードC051を獲得します。

P176

歯車を正しくはめこみ、何回か回してみた。目の前の壁が光る。まるで映画を壁に映しているようだ。図形が色とりどりに輝き、絶えず色と形を変えている。この映像はリジーが持っていたおもちゃの万華鏡の中身を映していると理解できた。

- ・カードC041、C097、C105を捨てます。
- ・アクショントークン4個を獲得します。

P177

儀式の「本」からちぎり取った、1枚の紙を取り出した。キーパーは興味なさそうにそれを見た。

「お前がやった儀式の記憶を俺に? まあ、それも良いだろう」彼は君から儀式の紙を受け取った。その瞬間、紙は崩れちりとなった。

「リジーはどうなる?」君はそう問う。

「誰だって?」キーパーは驚いたように見えた。まるで本当に先ほどの会話を忘れたようだ。

「娘のことだ!」

「なるほど、その不思議なお客さんのことか? お前が俺にくれた儀式の紙切れはそのためだったんだろ。彼女は起きるよ。約束しよう」そいつは君の前に「ポータル」を開けながら言った。向こうに、君がよく知っている地下室が見える。「行け。そしてすべて忘れろ」

- ・P088へ。

P178

君がパイプを動かすと、洗面台に水が流れるようになった。そして君は、洗面台の下に隠された青い本を見つけた。

- ・カードC034を獲得します。

